

学校教育と社会教育を両輪として、 地域全体で学び、育つ、豊かな教育を築く

和歌山県 橋本市教育委員会 教育長 **今田 実**

いまだ・みのる 和歌山県の公立小学校教諭を経て、橋本市教育委員会学校教育課指導主事、教育改革推進室長、学校教育課課長、同市立小学校校長を歴任。2021年4月から現職。

公民館を拠点に築いた絆が 学校教育の支えに

本市は、大阪市や和歌山市への交通の便がよいことから宅地開発が進み、1990年頃から人口が増加しました。しかし、2000年をピークに人口は減少に転じ、少子高齢化が進んでいます。そのように環境が変化する中で大切にしてきたのが、地区公民館を拠点とした社会教育と地域づくりです。現在8館ある地区公民館には、それぞれ20～50の子育てや文化などのサークルがあり、乳幼児から高齢者まで、様々な年代が集い、共に学び、支え合っています。そうして培ってきた地域の絆は今、学校教育の大きな力となっています。

本県では2008年度から、学校・家庭・地域が共に学び、育て合う「きょうくに共育コミュニティ」を推進しています。本市も同施策の下、「共育コーディネーター」を各地域に、「地域連携担当」の教員を各校に配置し、両者の連携を図ってきました。地域の人々が家庭科の授業でミシンの使い方を教えるなど、日常的に授

業に入って子どもを支援し、図書室の新着図書の配架準備や掲示物の作成なども担っています。学校行事でも、地域と合同で防災キャンプを行います。非常時に自分たちだけで行動できるための体験と位置づけ、地域の人々と小学6年生と一緒に避難所を設営し、新聞スリッパを作ったり、非常食を調理したりしています。

放課後子ども教室や登下校の見守りなど、地域の人々の支援は多岐にわたり、そうした支援には、施策を超えた子どもへの愛情が感じられます。教員にとっては働き方改革にもつながる、学校の力強い応援団です。

地域への愛着と他者意識が 深い学びにつながる

地域の人々との日々の触れ合いは、子どもが地域に愛着を抱くことにつながり、学びを豊かにしています。愛着があればその地域の問題に目を向け、解決したいと思うでしょう。例えば、ある小学校の「総合的な学習の時間」では、子どもたちがゴミのポイ捨て問題の解決を課題と

して設定し、自分たちに何ができるのか、地域の協力を得られないか、役所に何か提案できないかと、自分の持っている知識を知恵に変えて、行動しました。子どもたちは、このように学校での学びを社会で生きて働く力に変えて実践しています。

そうして育まれた他者意識は、学びの質をさらに高めています。私がこの3月まで校長を務めた小学校では、地域や他学年を対象にした学習発表会を度々開きました。子どもたちは、初めは学習内容をまとめるだけでしたが、次第に学習を通じて何を考え、学びをどう生かしたいのか、自分の言葉で語るようになり、地域の人々からの質問にも堂々と答えられるようになっていきました。地域という発表の場があることでアウトプットを意識するようになり、それが深い学びへとつながっているのです。

地域の人々もまた、学校に継続してかかわることによって、子どもの成長を肌で感じることができ、子どもを褒めてくれるようになります。褒められた子どもは自己肯定感を高め、地域の人々も生き生きとした子どもたちの姿からエネルギーを得て、



教育活動への理解を深めていきます。

子どもも大人も喜びが得られる、そうした地域連携を支援することが、教育委員会の役割です。各校には固有の課題があり、地域の状況も多様です。主体である学校と地域がよりよい形で活動を進められるよう、ニーズを聞きながら支援をしています。そして、各校の地域連携担当の教員が集まる推進協議会を定期的に実施し、よい取り組みを他校にも共有できるようにしています。

ICT活用の鍵となる 指導力向上を支援

地域と連携した学びが一層豊かになるよう、今年度、特に力を入れていくのが、GIGAスクール構想の推進と若手教員対象の研修会の開催です。

GIGAスクール構想では、推進計画を策定し、小学校3校、中学校1

校をモデル校としました。一斉授業や個別学習、協働学習など、各モデル校がテーマを決めて研究し、全校の情報主任が集まる会合でそれらの実践を共有していきます。さらに、授業づくりを支援するため、市内全域をカバーする4人のICT支援員を派遣することも決めました。今後は、和歌山大学と連携し、研究者から助言・指導を受けられる体制も整える予定です。

ICT活用は、授業づくりがしっかりできてこそ生きますが、本市では急増した若手教員の指導力向上が課題です。新採教員には専任の教員が指導員としてつき、日常的に助言をする機会がありますが、2年目以降は自主研修に任せていました。しかし、コロナ禍の影響で外部研究会に参加する機会が減り、さらに教員数が少ない小規模校では校内研究も十分に実施できないことから、指導主事による若手教員対象の研修会を行

うことにしたのです。先生方がすぐに生かせるよう、授業づくりを中心とした構成で、年4回行う予定です。

先日見学した中学校の保健体育の授業では、生徒一人ひとりがタブレット端末を持ち、インターネットで食事のカロリーを調べて食生活を見直した後、各自の考えをグループで共有していました。個別学習で考えを深め、学級全体としてさらに学習を深められていた授業に、改めて学習ツールとしてのICTの可能性を感じました。

教員が指導力を高め、子どもが授業で知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力等をしっかり身につけてこそ、地域での学びが実りあるものになります。そうして地域に育まれた子どもたちは、大人になった時に愛情深く地域にかかわり、次の世代を育ててくれるでしょう。そのような地域づくりを支える豊かな教育を、これからも実践していきます。

和歌山県橋本市 プロフィール

◎大阪府と奈良県の県境となる和歌山県の北東端、世界遺産・高野山のふもとに位置する。紀の川の中流域で、木材運搬業や高野山参拝の宿場町として栄えた。同市への移住支援策として、空き家移住応援補助金や転入夫婦新築住宅取得補助金制度、中学生までの医療費助成等を実施。特産品には、柿や巨峰、鶏卵、パイル織物などがある。人口 約6万1,500人 面積 130.55km² 市立園・学校数 幼稚園3園、小学校14校、中学校5校 児童生徒数 約4,100人 電話 0736-33-1111(代表)